

令和6年度 武蔵野市環境啓発施設運営会議（第1回）議事要録

- 1 日時 令和6年6月6日（木）午後1時～2時
- 2 場所 むさしのエコreゾート
- 3 出席者 藤原委員、中西委員、木村委員、村井委員、野村委員、奈良委員、関口委員

4 議事要録

(1)はじめに

（事務局より資料1～3について説明）

- ・出席者自己紹介を行った。
- ・議事録の取扱いについて、要録をホームページで公開することとした。
- ・傍聴人は定員を5名とするが、超過する場合は可能な限り対応することとした。

(2)むさしのエコreゾートの事業内容について

（事務局より施設の概要について、受託事業者より事業の概要について説明）

- ・Youthプロジェクトについて、参加者のなかでも、環境への興味の有無は様々だと思うが、どのように参加意欲を高めていくのか。

⇒(事務局)幅広く参加者募集をかけると、環境というテーマで集まっていたのは難しい。もう少し踏み込んで環境について取り扱っていくには、環境への興味がある方たちに直接アプローチしていく必要がある。そこで現在、募集先をこれまでの幅広い対象から、各ゼミの先生方や、学生の環境団体など、直接お話に行くことを考えている。今年度はそのようにアプローチしたいと思っている。

- ・むさしのエコreゾートの外側からだと、中がどのような施設なのか、開館しているのか、よくわからない。写真などで外側向けてアピールしてはどうか。
- ・子どもたちが日常的に来館し、ロコミなどで広まっていくのが望ましいと考えるので、アピール方法を検討してほしい。

⇒(事務局)施設のアピール方法について、検討したい。

- ・運営方法について、単年度契約の業務委託で実施する際は、事業の継続性をどのように担保するのか。

⇒(事務局)課題として認識しており、事業の継続性のほか、スケジュールに関しても、継続的な事業運営のためには単年度契約だと年度中盤からの動き出しになってしまうなどの課題がある。そのような課題の解決に向けて、今年度は試行的にまとめて委託している。本施設の運営や委託なども含め、今後ご意見いただきたいと考えている。

- ・環境啓発のターゲットの年齢層について、課題や、今後の狙いなどがあれば教えてほ

しい。

⇒(事務局)本施設は、幅広く、あらゆる市民に対して働きかけることを目指しているが、事業としては、昨年は「環境フェスタ」や「ものづくり工房」、「ワークショップ」はうまく機能していると思う。これらの参加者の年齢層は、主に未就学児から小学校低学年くらいまでの子育て世代が圧倒的に多く、その次にリタイアされた方々の世代である。それらの年齢層に対しては、現状を維持し、継続的にアプローチしていきたい。また、武蔵野市の駅の乗降客数のデータを見ると 15 歳から 25 歳くらいの層が 2 割程度を占めており、その世代へのアプローチが不足していると考えている。そのため、「Youth プロジェクト」の企画を通して、市役所からの発信というよりも、その世代の横の展開を期待したいと考えている。

・ここでいう「環境」とは、なにを指しているのか。

⇒(事務局)定義の仕方は様々だが、事務局としては主に環境省の所管の範囲が政策的に取り組む範囲だと思っていて、地球温暖化に関するエネルギーや二酸化炭素の話、生物多様性、資源循環、公害などである。ただし、むさしのエコ re ゾートは市民参加型の環境啓発施設であるので、それだけにとらわれず、環境の要素などが、どのようにつながっているのかというのを理解するなど、そういったことなども環境啓発、環境教育の範囲に入っていると考えている。

(3)令和 6 年度運営会議で意見交換するテーマについて、その他

(事務局より資料 4 について説明)

・出前講座など、むさしのエコ re ゾートからアウトリーチをしているような事業はあるか。

⇒(事務局)むさしのエコ re ゾートの施設として、学校の総合学習の市民科などの授業でお話をしに行く機会が昨年は 1、2 回あった。その機会を通じて、学校から施設に見学に来てくれることもある。

・施設の周辺には NTT 技術資料館や武蔵野クリーンセンターがあり、学校から見学に来るにはとても良いところであるので、その前に出前講座も実施できると良い環境啓発になると思う。また、年度初めに校長会があるので、そちらで出前講座などについて案内をすればもっと広まると思う。

以上